

天野武男先生に感謝

高 垣 行 男

天野武男先生は3月で定年退職されました。先生は1969年に国際基督教大学を卒業され都立秋川高校（全寮制）で英語教諭を経験された後に米国に留学されインディアナ大学大学院（応用言語学）を修了されておられます。帰国後に筑波大学外国語センター、そして1976年から国士舘大学教養部で講師・助教授・教授を歴任され、1995年に法学部に着任され本学で20年間勤務されました。このほかに東京農業大学、成城大学、跡見学園大学、早稲田大学、杏林大学などで非常勤講師をされました。通算して44年間の長きに渡って英語教育に携われて、教員生活を「卒業」されることになります。

先生とは学部が違いますが、私が2000年に着任したときに、講義の前後に講師控室でいると、他学部の教員の中で最初に笑顔で声をかけてくださったのが天野先生でした。その後、入試試験監督で一緒にさせて頂いたり、また面倒な業務のお願いをしたりもしました。講師控室で、先生のにこやかな笑顔に接して、心が和らいだ人は多いはずですよ。

先生は私より5歳ほど年長ですが当時の大学生にとって米国留学は一つの憧れでした。とはいえ、資金と語学学習機会の面での困難も多くて留学をされた人は極めて限られていました。私が就職した1973年でも外資企業にもかかわらず海外出張は社内ですら数少なく海外観光旅行が広まり始めたのは1975年ころからであったかと思います。先生の米国での大学院留学に際しては、現在の学生諸君が留学するのとは比較にならないくらいのご苦労が有ったはずですよ。本学での英語教育はもちろんのこと、とりわけ海外からの留学生や、留学に出る日本人学生への熱心な対応は、こういった先生の

ご経験からだと思います。ここ数年、国際交流委員をご一緒させて頂いて、先生のお人柄にあらためて気づかされた次第です。先生は学外活動も熱心で2007年度から8年間も飯能市廃棄物減量推進審議会の委員（4年間は会長）をされておられます。私が後任の委員なのですが、あらためて身が引き締まる思いです。

先生の信条は、後輩の私が言うと失礼ですが、「信念に基づいて客観的にまた公平に物事を判断する」でしょうか。一言でいうと「是是非非」（是を是とし、非を非とする）、かといって、頑固でも堅物でもありません。ぶしつけな私の意見でも笑顔で受け入れてくださったことが何回かあります。

定年退職後は、信仰の道で「信じて従う」を究めることを再出発させるお考えと伺っております。先生らしく「是是非非」ですね。市内にお住まいですのでまだまだ未熟な後輩に、ご助言をお願いいたします。

なお、卒業式の日先生から頂いたメッセージを、ここに紹介させていただきます。

「名残り惜し 桜並木の このよき日」

先生におかれては、お元気で、ご活躍をお願い致します。大変お世話になりました。